

第3回 新泉・和泉地区小中一貫教育校設置協議会会議録（要旨）

会 議 名	第3回新泉・和泉地区小中一貫教育校設置協議会
日 時	平成22年10月21日（木）午後2時～午後4時
場 所	新泉小学校 家庭科室
出 席 者	協議会委員27名（委員欠席2名）
事 務 局	5名（教育改革推進課長、学校適正配置担当課長、 統括指導主事、担当職員2名）
次 第	1 杉並区の小中一貫教育について 2 小中一貫教育校の教育内容にかかわる基本的な考え方について 3 その他
資 料	1 新泉・和泉地区小中一貫教育校の教育内容にかかわる基本的な考え方（案） 2 杉並区の小中一貫教育

会長	これから第3回新泉・和泉地区小中一貫教育校設置協議会を開催します。それでは、事務局から本日の予定について説明をお願いします。
教育改革推進課長	本日の予定ですが、はじめに、杉並区の小中一貫教育について、統括指導主事から説明させていただきます。 続きまして、小中一貫教育校の教育内容にかかわる基本的な考え方について、会長から説明をお願いしたいと考えています。
統括指導主事	資料2説明
会長	資料1説明
委員	これができ上がった時点で今の学校希望制度はどのようになっているのでしょうか。
教育改革推進課長	学校希望制度については、平成14年度から始まって9年たっているので、今、担当所管で検証を始めています。
委員	そうすると、例えば、この区域の子が、遠くへ行ってもいい状態か、もしくは、ある程度もうこの近辺の子はここへ行きましょうという状態になっているか、どちらもあり得るわけですね。強制的に、とはいわないまでも、基本的にはここで9年間の教育を受けましょうという流れになっていると考えてよろしいのでしょうか。昔はこの地区はここと決められていました。
教育改革推進課長	学校希望制度はなくなっている可能性もあります。
会長	もちろん残る可能性もあるということですね。
教育改革推進課長	最初に申し上げたとおり、10年近くたって、この10年間の総括や検証を始めているところですので、今の段階では決まっておりません。可能性としてはどちらもあり得るということです。
委員	そこは大きいですね。
委員	統廃合を今まさにやっている最中で、もうこれで杉並区は一応一段階の統廃合を終えたということでしょうか。
学校適正配置担当課長	学校希望制度については、10年たち、一定の成果は得たと考えています。そこで、今後どうするか、検討しています。 仮に学校希望制度を廃止したとしても、一律に廃止するのか、あるいは特色のある学校については特例として、もしくはこのエリアだけは隣接から希望できるようにするか。その辺も具体的にこれから皆様のご意見を聞きながら、いろいろ定めていくこととなります。
委員	それは、小中一貫教育校になったその先、ほかとは違う事例になるということですか。

学校適正配置 担当課長	それもあるということです。
会長	ないかもしれないし、可能性もあるということですね。
学校適正配置 担当課長	検討の結果、学校希望制度はそのまま残るかもしれないので、具体的には申し上げられません。
委員	<p>先ほど、期待する効果の中で、小中一貫で9年制になると、不登校や引きこもりなどに対してもメリットがあるなど、すごくいいことがたくさんあるとおっしゃって、具体例を挙げていなかったのですが、実際今、学校は分かれているけれども小中一貫として教育はしています。同時に、義務教育終了後の確かな進路保障というの、先ほどおっしゃったように、高校進学は90何%、逆に義務化している高校進学の中で、この確かな進路保障というのは何なのかと疑問に思います。</p> <p>あと、根本の部分ですが、9年間で小学校と中学校が協力してやることのコンセプトなどは理解しているつもりですが、校舎を1つにしてそれをやっていくことのメリットがそれほどあるのか、というのが、今、保護者の中でも出ている意見の1つです。私自身もそう思います。</p> <p>先ほど中学入学のときから、「今日から君たちは大人だから」と言うことがどうなのか、という話もありましたが、逆に私はそれでいいと思います。「あなたたちは今日から中学生です」という節目がもちろんあっていいと思うし、下手にゆとり教育をやってきた現在、定職につかず、実際に何をしたいのかわからないような状態にいる子どもたちが多く中で、この小中一貫という9年間も、大事に育てていくだけの話だと、一抹の不安が残ります。本当に9年間、わざわざ校舎を一緒にしてやるための大きなメリットがはっきりしてこない、納得できない部分があります。</p> <p>逆に、この地域に住んだら小中一貫教育校に入るんですよ、となったら、小学校受験が増えてしまうかもしれない。あるいは、転校してきた子が、その9年間も一緒にいる子供の中にこれから入っていくのは嫌だと思ってしまうかもしれない。そういう中で、この地域だけに限定していくことが果たして本当にいいのか。</p> <p>一番考えるのは、やはり9年間同じ校舎で小学生と中学生が過ごすことの大きなメリットは、もう少し具体的に出していただきたいと思います。</p>
統括指導主事	<p>おっしゃるとおりだと思います。実は小中一貫教育校はご存じのとおり、品川区が取り組んでいますが、品川区にしても、まだ一貫教育を受けた子が卒業するまでの時間がたっていないために、現在のところは明確に成果が報告されていません。</p> <p>ただ、先ほども少し触れましたが、学習指導1つとったときに、教員間</p>

	<p>の連携が同じ校舎にいたほうがはるかにスムーズにできる。例えば、職員室が一緒になるわけです。小学校と中学校の先生、特に4月、5月は小学校から中学校へ進学したとき、中学校の先生は何か困ったときにすぐ小学校の先生に聞ける。小さなことですが、そういったところは1つのメリットだと思います。</p> <p>ただ、ご指摘のとおり、やはり節目は大切です。小学校から中学校への節目で、もう今日から大人だよと言うことも大事です。ただそれによって心がギクッときてしまう子もいるのも現実ですから、節目は大事にしていきたい。中学校3年生まで一緒にしたから、例えば学校の中で見れば、小学校6年生が今までは最上級生だったのが、そうではなくなってしまいます。これまではリーダー意識を育ててきたものの、今度は上がいるわけです。そのことによって6年生のリーダー意識が育たないのではないかというご意見もいただいています。</p> <p>しかし、そこはすべてを小中一緒にやるわけではなく、小学校でやる行事、中学校でやる行事はあるわけですから、その中でリーダー意識は育てていく。校舎を1つにして、接続をよくしますが、何でもかんでも一緒にすることがベストであるとは思っていません。</p> <p>それから、進路保障の件につきましては、ほとんどの子どもたちが高校へ入学します。しかし、入学した多くの子どもが中退しているのも現実です。そこまでは中学校としてはなかなか情報が入ってこない場合もあります。</p> <p>ただ、都立学校を見たときに、今から20年前、30年前と比較にならないくらい多くの子どもたちが中退しています。ですから、進路保障の1つとして、やはりそういう子供たちにしないことも大事です。さらに、選択肢が2つではなくて、多く持てる子どもたちを育てるといふ、その進路保障も1つに考えています。</p>
<p>会長</p>	<p>校舎が一緒であれば、触れ合う人の数は増えます。子どもというのは、いろいろな人とふれあい、かかわったほうが絶対に成長すると思います。かかわるにはいろいろな意味でルールが必要ですし、そういうものもきめ細かく教えていかなければならないため、教員は大変になるところもあると思います。しかしそうすることで、子どもたちの年齢がそれだけ広がるから数が多くなる。それにかかわる保護者も多くなることを考えると、私は望ましいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>このような大きな問題について、小中一貫教育校がいいかどうかと聞かれると、答えるのはなかなか難しいと思います。要するに小中一貫教育とは一体何だという根本的なところをまず理解しなくてはいけないと思いま</p>

	<p>すが、やはりこのような教育をすることによって、ふれあいのフェーズが非常に大きくなる。では、今までのようなやり方はだめで、こちらのやり方がいいのか。そういう問題ではないと思います。要するに人間の生き様において、フェーズが多ければ多いほどそれは可能性が出てきます。</p> <p>例えば、そのフェーズが多いということは、一貫校にして校舎を一体型にしてフェーズを増やす、そういうことだけでは問題は解決しないと思います。やはり私ども地域支援本部は、こういう一貫校において、一体どんな役目をするべきものなのかというような根本的なことを考えたときに、これは生涯学習論ではないかと思います。ですから、この小中9年間を一貫で育てた子どもたちが、次のステップに進むときに力強く巣立つことができるという教育を地元と一緒にやれるかどうかということだと思いません。</p> <p>いくらフェーズを増やしても、機会があっても、教室の中は以前と同じように、小と中がなかなかコミュニケーションを取れなかったり、あるいは先生方とのコミュニケーションを地域が取れなかったりしているということでは、結局フェーズが倍の数あっても機能しない。ですから、小中一貫ではこういうことを求められる、こういうことが必要だと具体的にやっていくことが大事なのではないかと思います。</p> <p>その結果はどうだと言われても結果が出ていないわけですから、出しようがないわけです。ですから、可能性に向かってどのようにしたらこれが実現できるか、議論していったらいいのではないのでしょうか。</p>
会長	<p>そうですね。統括指導主事から出たように、確かにまだ検証という意味では、何がよくなったのかというのははっきり出ていないですからね。</p>
委員	<p>以前、不登校気味のお子さんに対し、小学校の先生はなかなか上手な対応をして、先生方が面倒を見て、そのお子さんは何とか学校へ来ているという様子を見たことがあります。しかし、そのお子さんが中学校へ行ったときに、その状態が中学校にはある程度、話がいとっていると私は思っていたのですが、やはりそこがうまく連携というか、話し合いが持たれていなくて、中学へ行ったら、やはり学校には出られなくなってしまった。そのときに小中のつながりがあったら、そのお子さんはもう少し学校に行かれたのかなという経験をしましたので、そんないいこともあるのかなと思いました。</p>
委員	<p>杉並区の小中一貫教育や新泉・和泉地区の小中一貫教育の基本的な考え方は理解できますが、まずこれらのコンセプトを掲げる前に、今の子どもたちは基本的なことがなかなかできない。例えば、人に会ったら挨拶をするとか、出されたものは残さず食べるとか、困っている人がいたら助ける</p>

	<p>とか、本来それは家庭教育で行わなくてはいけないことですが、今はそれが当たり前だといっても家庭でなかなかできない状況があります。</p> <p>やはりそれらはこれから新しい学校をつくるに当たっても、学校や家庭、地域が協力して人間としての基本的な部分を育てていかななくてはいけないと思います。そういうものができなくて何で夢を実現するための力が伸ばせるのかと強く思います。そういうことをやはりこれらに含めてもいいのですが、もっと基本的なものを子どもたちに身につけさせるような方向で考えていただきたいと思います。</p> <p>加えて、現在、小中一貫教育の実施にあたって、やはり先生方の苦勞、杉並区だけなのかどの地域の教員もそうなのかわかりませんが、できるだけやらなくていい仕事、例えば文書で提出するものなどをもし減らせるのであれば減らして、教員が子どもたちとかかわれる時間を増やすことを考えていただけるとありがたいと思います。先生方が余りにも忙し過ぎて、やはり子どもと触れ合う時間が少ないのが現実だと思います。また、教員は授業の中で子どもとかかわればよいという考え方もあるかもしれませんが、子どもを育てていく上ではやはり教師とのかかわりやふれあいはとても大事だと思うので、その辺を考慮していただきたいと考えています。</p>
<p>統括指導主事</p>	<p>今、文部科学省も、教師が子どもと向き合う時間をしっかり確保するように言っています。ある程度何かをしたときには報告をするといったことは、社会人でも一般企業でも同様です。そういうことは簡略化できるものはするということで、済美教育センターを中心に、試算では、去年の3割ぐらいいは文書を減らしました。これからもできるだけ先生たちが子どもたちと向き合って、本当に一番大事なところに時間をかけていただけるように配慮していきます。</p>
<p>委員</p>	<p>私は地域で子供たちに何十年と勉強を教えていて、問題を抱えているお子さんを多く見てきました。子供達は学習面だけではなく、家庭面、友達関係、たくさん問題を抱えているので、なかなか答えが出ないときは、友人の教員に電話をして、こういう事例はどうしたらいいかと聞きます。そうするとよくわかると言ってくれるのですが、「基本的に先生が忙し過ぎる。個々の例にそこまでの対応ができないのが現状です」ということなのです。</p> <p>そうすると、先ほどの校長先生の人とのふれあいが広がるというのはいいことですが、人数が増えた分だけ反比例して、なかなか気配りできなくなるようにしなければいけません。その点は、先生の加配の配慮等、やはり具体的に現場の教員から「忙し過ぎる」と吐息のような感じで言われているのをここ1、2年聞いているので、先生だけ責めることはできま</p>

	<p>せん。モンスターペアレントもいますし、その中でこの9年間を打ち出さなければいけません。きめ細かいと言葉で言ってしまうと簡単ですが、人数の加配を手厚くするなど、そういうことも考えていただきたいと思います。</p> <p>さっきエリート校ではないとおっしゃっていましたが、やはりこういう形でお金をかける以上、ある程度エリート色は出てしまってもやむをえないと思います。教育は平等ではあるけれども、9年間一貫ということは何かと違わなければならないし、選ばれた部分というのが出てしまいます。そうしたら親はそれがきつといいと思って入れようと思います。つまり、何か具体的な売りをきちんと明言しないと、理想論、抽象論のおいしい言葉だけ並べていても、一般のお母さんたちにはぐっとくるものがない。</p> <p>施設がきれいになったということはやはりメリットではあるかもしれませんが、この時代に親には、打ち立てたものをいくら並べたとしても入ってきません。今は親御さんも教育のレベルが高いですから、やはり見るところは見ます。もう少し親に届くような言葉や具体的なものをこれから何年かけて地域のみならずつくっていくことになるかと思いますが、いいものをつくるならそういうこともちゃんと見据えてやらないと、言葉だけきらきらしていてもだめだと思います。</p>
<p>教育改革担当 部長</p>	<p>現在、家庭や地域の問題を学校にお任せするという風潮がありますが、こちらは学校支援本部やPTAがさまざまな取組を行っていて、先生方が本当に大変だという状況をよくわかっています。</p> <p>今日はまだキャッチフレーズやコンセプトですが、平成27年4月へ向けて、具体的に細かくどのような指導をしていくかなどを議論して、そのきめ細かい指導をするためにはどのような先生が必要なのか、どのような教科を重点的に取り組むかなどを煮詰めていってほしいと思います。</p> <p>先ほどの、挨拶や日常生活のルールについては、地域の中で子どもに逆に挨拶をしかけていって、それに挨拶を返すというように、地域も学校と一緒にかわっていくということを、これから時間をかけてますます進めていければと思います。</p>
<p>教育改革推進 課長</p>	<p>ある小学校の校長先生に、保護者の方から、「うちの子は挨拶ができないじゃないか」という苦情の電話がかかってきた、という話を聞きました。この話はどこで話しても皆さん笑うのですが、現実にあった話で、その電話で2時間つかまるというクレームでした。</p> <p>あとは、「家の前が通学路になっていて、子どもが話しながら毎日歩いているのがうるさい。通学路を変えればいいじゃないか」という電話が直接校長先生にかかってきて、それで1時間、2時間つかまってしまうという</p>

	<p>ようなこともあります。この地区はそういうことはありませんが、ほかの地区の見本になるように、地域の方も一緒に協力して学校をつくっていくような、そんな杉並の手本になるような学校をぜひ目指していただきたいと思います。</p>
委員	<p>先ほどの、先生たちが子どもと向き合う時間や触れ合う時間をふやすために事務処理を減らすということでは、IT業界から見ていると、教育現場は一般の企業に比べてここ10年、15年の間に随分差がついてしまったなというのが実感です。</p> <p>具体的にもっと活用していくことを考えるのと同時に、こういう場でもいろいろ議論していく機会があるといいのではないかと思います。</p> <p>デジタルデータやコンピューターデータのいいところは、情報が共有できることで、一斉にバッと皆さんに広げられることと、もう一つは再利用が簡単だということです。その辺の利点をうまく生かしながら、せっかく新しい学校をつくるので、そういうところも取り入れてうまく改善していく。5年間という長いですが、スピード感が速い時代なので、やっていけるといいのではないかと思います。</p>
会長	<p>電子機器や電子黒板の活用など、具体的な内容を議論する段階でいろいろお話しいただければと思います。</p>
委員	<p>先ほど統括指導主事からいただいた資料を見ました。表現一つひとつが抽象的で、小学校の卒業生代表やPTA代表にこの話をして、これに議論してもどうかという思いがあります。そうはいっても、このような区の施策として、教育委員会で考えられたのでしょうから、これについてはいいですが、会長から配っていただいた資料もあまり変わりません。</p> <p>我々がここで話し合うべきは、なぜこの新泉・和泉地区でこのような一貫教育校を受け入れるのか。あるいは、みんなで立ち上げるのかということを考えなくてはなりません。なぜ自分たちの母校がなくなって、この地区にこの学校をつくるのかということは切実です。この場で教育の理念そのものをみんなで話し合っても、あまり意味がないと思います。</p> <p>では、新泉・和泉地区になぜこういう施設、組織が必要かと考えたら、もう少し会長からのプレゼンテーションも変わってくるのではないかと。今、この地区が抱えている問題が何なのか。なぜみんな泉南中に行ってしまうと、和泉中に行かないのだろうかということ踏まえた上での問題提起があって、そこが小中一貫教育になったらこうよくなるのではないかと。</p> <p>要するに、なぜこの地区にこういうものがいいのかということをもう少し具体的に話し合わないとなりません。学校の先生が大変だというのは、この地区だけではないはずで、ここで話し合うべきは、もっとこの地区に</p>

	<p>限定したことにしなければならないと感じました。</p>
会長	<p>そもそも論については、私はここで語れる立場ではないので、教育委員会からのほうがいいと思います。</p>
学校適正配置 担当課長	<p>そもそも最初の取り掛かりというのは、やはり杉並区自体の少子化が進んでいる中で、学校の適正配置を進めていく上でも、単なる1つの学校をなくしてどこを残すということではなくて、新しくいい学校をつくっていい話になったことです。そして、新しくいい学校とはどういう学校なのかというところで、小中一貫教育校という話が出ました。</p> <p>先ほどの、効果はどうかという議論もある中ですが、小中一貫教育で日常的に同じ学校の中で小学校と中学校の先生が相談しながらやっていくことによって、先生の意識が変わり、先生の意識が変わることによって、教え方、学び方、いろいろなことが変わる。それがひいては児童生徒に転換されていくという話を聞いています。</p> <p>これはひいては公立学校がやるべき9年間で1つの学校として位置づけていくことにもなって、ここはしかも平成17年から試行的に小中一貫教育に先駆的に取り組んでいただいている上に、また地域の学校支援本部の方々もちょうど3校同じメンバーの方でやっていただいている。そういう土壌がある中で、杉並区で進んでいる小中一貫教育を、この地域で杉並区最初としてつくりたいと思っているのですがどうですか、というお話をし、皆さんに賛同いただき、小中一貫教育校をつくらうという話になったわけです。特に新泉小学校の関係者の方々に、やはり適正配置というのはすごく重いイメージを受けるので、なるべくそういう言葉は使わないでほしい、やはり新しい学校をみんなで作らうという話で進んでほしいということでした。</p> <p>ですので、今言ったような雰囲気、この地域で杉並区最初の小中一貫教育校をつくって、この杉並区全体のリーディング的な役割をしていこうという話になりました。</p>
委員	<p>本当に小中の教員同士の交流に意味があるなら、区内全校で実施すればいいと思います。こういう試みはしなくても、行くべきはずの中学校の先生が様子を見に来て、あるいは小学校の先生がと、そんなことは入れ物の問題ではなく、心構えの問題です。</p>
教育改革推進 課長	<p>昨年の9月に、小中一貫教育を全校でやっていこうという計画を策定しました。そして、今年4月から6月にかけて、66校全校のヒアリングを行いました。その結果、何もやっていないところはありませんでした。最終的には、全ての小学校と中学校で、こういう組み合わせで小中一貫教育を重点的に行っていきましようかと決定していく予定です。</p>

	<p>この地区については、区内で初めて小中一貫教育校をつくっていくということですので、今ある3校でやっている小中一貫を発展させた形の一貫校となります。</p>
委員	<p>根本的な問題になりますが、去年の説明会の時点で、お母さんたちの中では、何を質問してものりくらりだし、抽象的だし、結局私たちが今さら何を言ってもこれは決まったことでしょうか、という感じでした。現状としては、実際に住む地域の人たち、これから子どもを育てていくお母さんたち、または大先輩の方たち、すべての人たちにそれをやるのがどうかというのを諮ったわけではありません。</p> <p>そのため、私たちの中では、もう既に決まったことを、少しはよくしていったらどうかという程度にしかとらえることができない。本来は私たちではなく、これから小学校に入る子どもを持っているお母さんたち、あるいは小学校1年生や2年生のお母さんたちが興味を持たなければいけない部分ですが、蚊帳の外になっています。興味もないし、「もう決まったことならそのときにどうにかなるでしょう」という程度でしかなくて、もちろんいろいろな人たちの意見を聞きながらやっていくのもいいですが、これからその学校で学ぼうとしている保護者がどう思うのかと気になります。</p> <p>あと、先ほどから挨拶の件もすべて含めてですが、私たちの時代にはあった地域が今はない時代だから、地域としてのいいものをいろいろ立ち上げて、援助していかなければいけないのかもしれないかもしれません。</p> <p>先ほどの中退の件もそうですが、もう高校に行こうという意識自体が昔と今では全然違いますから、中退するかしないかも異なります。となると、教育の原点のところ、家庭教育はもちろんのこと、学校教育ももとに戻ってこなければいけない部分もあります。</p> <p>学校の先生は忙しいという話がありましたが、私たちが中学校のときは先生と確かにすごくいっぱい触れ合っていたけれども、そのころの先生というのは今より仕事は少なかったのかな、何が違うのだろうと思います。</p> <p>なぜ今ここでこの地区でこれをやらなければいけないのかがもう少し明確にならないと、なぜそれが必要で、なぜそれをしなければいけないのかというのが、やはり本心の部分で納得できません。小さいお子さんがいるお母さんたちがどう考えているのかとか、もっと先輩の人たちのこともあると思います。それが中心となって、私たちが今やっているのでしょうかけれども、今の小学校のお母さんたちとしては、どうなるのだろうという不安はいっぱいあっても関心は持っていないと思います。ですので、もう少し発信をしていったほうがいいと思います。</p>
教育改革推進	<p>低学年、幼稚園、保育園についても、今までよりももっと多く情報発信</p>

課長	<p>をしていきたいと思ひます。</p> <p>それから、この地区でという点に關しましては、先ほど学校適正配置担当課長からもお話ししたとおり、新しい学校をつくるという中で、やはりこの地区では、小学校も中学校に対する関心も非常にあり、中学校と一緒にやっいていこうという意識も高かったということです。ですので、一体型の一貫校できちんと人間形成を図る小中一貫教育校をつくっていこうという考えのもとに、今回この計画を策定しました。</p>
委員	<p>やはり地域や保護者は、中身の部分よりも、どんなすばらしい校舎ができるのかということに關心があります。</p> <p>方南小学校、高井戸小学校、荻窪小学校、先月行きました新田学園も、すばらしい校舎でした。自分が子どもだったら絶対行きたくなるような、夢が持てるような校舎というのを見た中で、すごく進学率がいいとか授業内容がいいとかということよりも、ハード面や、例えば設計が変わっているとかそういうものに夢を感じる部分があると思ひます。</p> <p>中身については、保護者は興味があるかもしれませんが、實際子どもたちは建物や環境に興味を持つのではないかと思ひます。小中一貫教育の話し合いであれば、地域や保護者は、まずどこから手をつけるのか、どういう構造になるのか、ということがとても氣になっています。</p> <p>例えば、せつかく和泉中に入れたとしても、3年間はプレハブで終わってしまうのかどうかなど、中身を決めていくことも大切ですが、それよりも前に、どのような校舎ができ上がるかというものを打ち出してもらわないと、自分の子供のこととして考えられない保護者が多いと思ひます。例えば、新泉小学校の跡地はどうするのかというようなことです。</p> <p>それと關連して、やはり設計にあたっては、コンペ形式をとるのかプロポーザル方式をとるのかによっても、その設計内容が変わってくると思ひます。単なる入札で競わせて安いところにといいのでは、多分地域は納得しないので、その辺も含めてハードの部分をもう少し打ち出してもわらないと、やはり我々保護者の立場としては考えにくい部分がありますが、どのように考えていますか。</p>
学校適正配置担当課長	<p>ハードに關してはプロポーザル方式や入札方式などがあります。杉並区がこれまでとってきたのは、入札で設計業者を決めますが、統合協議会の中に建築部会を設け、そこに学識経験者も交えて、具体的にどういふ学校にしようかということで、まずは配置から入って教室構成をどうするか。たたき台はその設計事務所に出してもらい、地域や保護者の代表者の方々、または学校の先生を含めた中で具体的に決めていくような形をとっています。建築部会に、こちらの設置協議会のメンバーの方々全員に移っていた</p>

	<p>だくのか、何人かでやっていただくのかは別として、最終的には皆さんのいろいろなご意見をいただきながら、新しい学校をつくっていこうと思います。</p>
委員	<p>一般の保護者は、何に興味があるかという、やはりどんな建物になるのか、工事のときにどうなるか、つまり、コンセプトに関してはほとんど関心がありません。ですから、それを理解した上でこの会議を進めていかないと、中途半端に空転してしまいます。ハードとソフトの両輪のバランスをとって進めないといけません。</p>
委員	<p>私がハードの面を出したのは、ただ単に新しいきれいな校舎ということだけではなく、ふたを開けたけれども生徒が少ない状態では学校はスタートできないことをいいたかったのです。ですから、もう少し保護者の関心を引き付けないと難しいと思います。</p>
教育改革推進課長	<p>協議会の当初に、来年度から設計に入っていきたいと説明させていただきましたが、やはり少しでも早く、形として見えるものを議論する必要があると考え、早急に設計に入れるような準備を進めているところです。</p>
会長	<p>資料2の4に「小中一貫したカリキュラムによる連続した学習指導の展開」と書いてありますが、これを具体的に検討していったときに、例えば、英語は専門の先生がずっと教えるために英語教室があったほうが良いなど、仮にそういう話になると設計、ハード面とかかかってきます。両方並行して、ある程度こういうことをやりたいということを固めておいたほうが、後から無駄にはならない、いい設計ができると思います。</p>
委員	<p>グリーンプロジェクトでも、芝生が今後どういう形になっていくのかという話を議論しています。工事期間中や新しい校舎が建った後の校庭の芝生のプランをまずお聞きして、その上で我々もいろいろ意見や提案をしていきたいと考えています。</p> <p>2つ目として、例えば細かい話、テクニカルな話をする際の担当の方を教えていただき、そういう方とお話もしていきたいと考えています。</p> <p>グリーンプロジェクトはここに集まっている地域の方たちと一緒に、子どもたちのためにいろいろサポートしていきたいと思っています。</p>
会長	<p>さきほど、徳育に関する部分をもう少し入れてほしいという話がありましたが、その他にもあれば出していただいて、事務局から今後の予定も含めた話を伺えればと思います。</p>
委員	<p>これは普通学級のことだけに特化されていますが、特別支援学級にかかわる方たちに向けてのコンセプトやキャッチフレーズ、そういうものも入れてほしいと思います。加えて、学童の設置の問題なども考えてほしいと思います。</p>

委員	27年度に小中一貫教育校ができることが皆様に伝わる中で、来年度の和泉中を希望されているお子さんというのは、このことが発表されたことによって何か変化はありましたか。
会長	学校希望制度での希望数が若干持ち直してきたかなと思います。
委員	新泉・和泉地区の小中一貫教育校の教育内容にかかわる考え方を見ますと、「新泉・和泉地区」がなくても同じかなという気がします。この地区の一貫教育校の基本的な考え方を見せていただくと、非常に受け入れられると思います。
会長	<p>いずれ3校の校長で話し合った中で出したいと思っています。まず、先ほど統括指導主事からも説明がありました。1番から3番まではどの学校にも通用するような、要するに小中一貫教育というのはこういうことですよ、という書き方です。ですから、まさにどの学校でも通用するものです。</p> <p>その下の重点の部分に、この地域の特色を出したいのですが、まだ具体的なことは書き込まれていません。この地域としての特長としたら、施設一体型ですから(1)にあるように、連続してできますよ、施設一体型ですから常にふれあいができますよというところが、この新泉・和泉地区の小中一貫校は大きな特長になるわけです。さらに、地域の支えが違いますよ、という(4)です。</p> <p>(3)で書いてはいませんが、芝生のことがここに出てきます。そのあたりの具体的な内容について、これから協議して示すのはもう少し話してもらってからになります。このような流れで、いずれ出すことは考えています。</p>
委員	そうであれば我々がこの場で主に話し合うべきは、この4番ですね。
統括指導主事	最初のコンセプトは、抽象的に言えば、基本的には人間形成していくことです。どのような表現をするかというのを今日は地域の皆様方からご意見をいただいて、今後コンセプトをつくり上げていき、教育目標にしていくときの柱にしていきたい。だから、1、2、3というのが基本的には小中一貫教育の考え方で、4番が重点です。けれども、この新泉・和泉地区の表現の仕方として、人間形成をどうしていくかというところでご意見をいただきたいということです。
会長	<p>いかがですか。次回も話はできるので、そのときによくお考えいただいて、次回また活発にお話しいただくとありがたいと思いますが、そういう流れでよろしいですか。(異議なし)</p> <p>それでは、次第の3について、事務局からお願いいたします。</p>
教育改革推進	先ほどお話ししたしましたが、この協議会のスケジュールについて、若

課長	干修正というか、前倒しで行いたい部分がございますので、学校適正配置担当課長から説明させていただきます。
学校適正配置担当課長	<p>改めましておわびとお願いです。</p> <p>最初の1年は、どういう学校にしていくかというソフト面のお話をしていただいた上で、来年から基本設計をして、その後の2年間は概算見積もりで22カ月工期と考えておりましたので、26年中につくって27年4月に開校して、外構などを27年度中にさせていただきますというお話をしていました。</p> <p>ただ、今、天沼小学校という統合校を建築中ですが、それも当初7月に完成する予定のものが、地下から想定以上の水が出た関係で、11月竣工ということで3学期から新しい校舎に入ることになりました。この地域は川に沿っておりますので、当然地下の校舎をつくることは考えてはいなかったのですが、やはり杭や水害対策のための貯水槽などをつくることになりますと、万が一水等が出てしまった場合、どうしても22カ月で納まらない可能性があるということです。もし土壌改良などが必要になれば、プラス5カ月必要だという、かなり慎重な見積もりが出ました。</p> <p>そうしますと、22カ月にプラス5カ月だと、27カ月必要になってしまいます。普通の学校改築であれば、少し遅れることも可能なのですが、一貫校の場合、4月に開校しなければなりません。ですので、その分設計を若干前倒しさせていただいて、1月ぐらいから具体的にどういう学校にするかという話をさせていただきたいと思います。</p> <p>先ほどの芝生についてですが、大体10年ぐらいで一度はがす時期になります。具体的に校舎は、敷地を活用するのが和泉中か和泉小かによって校庭をどうするかということも今後になりますが、外構も27年度中にそのうちのどこの部分を芝生にするか、またそれはいろいろ協議会の方々やGPの方々にご相談させていただきながら決めていきます。そういうことで、1月から具体的なハード部分のお話をぜひこの協議会の中でさせていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。</p>
会長	<p>今の事務局からの説明に何かご質問等ございますか。よろしいですか。</p> <p>(なし)</p> <p>そのほかに何かございますか。</p>
副会長	<p>次回のことを考えたときに、次回またもう一度これを話し合うと言いましたよね。今、皆さんの意見を整理した中でやはり大事なものは、新泉・和泉がどんな小中一貫校になるかということを中心にちゃんと議論したいという話だとすると、この1から3は会長から話があったように、表現の仕方は特色を持たせるにしても、区と共通したものであるということであれば、こ</p>

	<p>の4番についてお考えいただいてきて、それぞれご意見を出していただくというような流れと確認させていただいてよろしいでしょうか。</p> <p>そうすると、新泉小学校は84年の歴史があって、この行く末がどうなるかとても心配している人たちがいます。こういう会議には参加できないが、少しでも自分の意見を伝えていきたいという人たちもいます。もちろん代表はこの委員の方たちですが、12月の会議までの間に学校にかかわる人たちの間で、この重点についてのご意見をいただきながら発言していただくような機会をとりたいと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>副会長からお話があったように、次回は4番のところをそれぞれ、ここにつながることはどういうことなのかをお考えいただいて、発表していただきたいと思います。よろしく申し上げます。</p> <p>それでは、これで終了いたします。</p>